



日本人の繊細さが生み出す ボトル洗浄機や分別回収機

財団法人 地球・人間環境フォーラム専務理事 **平野 喬**

「お・も・て・な・し」に代表される日本人の細やかな心づかいが世界から注目されました。また、「和食」が世界遺産に認められ、海外からの観光客も昨年は1100万人を超えたそうです。日本の伝統的な文化や暮らし、食べ物、日本人の心そのものまで高く評価されているのはうれしい限りです。

加えて、日本の技術にも再評価の光が当たり始めています。多機能、高品質なのに、特異な進化をしたガラパゴスの動物たちになぞらえて、日本でしか通用しないと人気が無かった携帯端末などが、ヨーロッパで見直されているという新聞記事を読みました。

昨年12月の話で恐縮ですが、東京・ビッグサイトで開かれた日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」を見学し、改めて日本の環境技術や製品の素晴らしさに感銘を受けました。毎年700社以上が出展し、三日間で18万人もの来場者がありますが、大企業に混じって、展示ブースは小さいもののキラッと光った中小企業の二つの環境製品が目にとまりました。いずれも日本人の繊細な心と技術が生み出した傑作です。

一つは、関西の若手経営者らで組織する「ambius」(電話075・741・6898)というグループです。最近、使い捨ての飲料容器を敬遠してマイカップ、マイボトルを利用する人が増えています



洗剤を使わないマイボトル専用洗浄機
=エコプロダクツ展にて

ない点が注目されます。これまで、洗剤を使うことが環境負荷を高めてしまいうため、使用量を減らして衛生水準を維持することとのバランスをどのようにとるか悩みの種だったので。そこで、水が電気分解して還元水と酸性水に分け、両方の水で別々に洗うと細菌の除去率がゼロになるという全く新しい発想が取りこまれました。その後、普通の水ですすぎ洗いをし、温風をかけて乾燥させるまでの30秒、一つの装置の中で行い、水の使用量は手洗いの50%以上節約できるとのことでした。

小型のうえコスト的にも

洗浄機全体の大きさは、高さが140cm、横幅が124cm、奥行が66cmほどで、カフェ、オフィス、コンビニ、さらにホテルの片隅にもおける大きさです。

もう一つは、グリーンBOXと呼ぶアルミ缶、スチール缶、ペットボトルの自動選別機。奈良県に本社を置く(株)エコフ

が、さらなる普及のネックとなっているのが、再使用するための洗浄をどのように早く、衛生的に、安く行うかという点です。

この洗浄機は、まず洗剤を使わず洗剤を使わ

レンド(0742・72・0880)という会社の製品で、一つの投入口に容器を入れると、瞬時に3種類に分別し、それぞれの回収袋に収納されます。さらに、デジットや音声案内の機能も備え、太陽光発電を利用して電源のない場所にも設置できます。

清涼飲料水の自動販売機の横には、缶びん、ペットボトルなど別々の回収箱が置かれていることが多いのですが、回収箱の中にはいろいろな容器が混ざって投入されているのが実態で、リサイクルが進まない原因の一つになっていると聞きます。

グリーンBOXは、金属センサーとマグネットで容器を分別し、その早さは1.2秒。高さが180cm、幅56cm、奥行65cmのグリーンBOXだとアルミ缶スチール缶が各120個、ペットボトルは130本の収納が可能です。

資源ごみを回収するリサイクル会社とのネットワークもできており、ほとんどコストをかけずに設置することもできるそうです。洗浄機の方はリースで提供できる仕組みになっているそうで、いずれも循環型社会を築く上でのヒット商品になりそうです。

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム
環境問題に取り組む公益法人。地球環境問題の科学的調査研究を目的に1990年に設立。
国立環境研究所・地球環境研究センターの研究サポート、研究成果の普及・啓発などのほか、月刊機関誌「グローバルネット」を発行。